

ことぶき共同診療所だより

第 21 号

2006年6月30日発行

横浜市中区松影町 2-7-17 リバーハイツ石川町 2F

電話とファックス 045-651-2305

E-Mail info@kyoudouclinic.com

URL http://www.kyoudouclinic.com/

発行：医療法人ことぶき共同診療所

目次

新しい10年へ向けて再出発！！	田中 俊夫
デイケアで引越し・清掃業を始めました	大平 正巳
“診療室から”(17)―笹島、新宿、山谷、そして寿―	大脇 甲哉
「寿町に住む高齢者・精神障害者の必要とするサポート について考える」学習会レポート	新井 育子
寿町・あれこれ ナースコール	取材/編集部
診療所日誌	矢島 雅子
職員自己紹介	菊地 加奈子
寿町地域ニュース・あらかると(2005年10月~2006年4月)	寿町関係資料室
共同診療所・鍼灸院ガイド	



巻頭言 新しい10年へ向けて再出発！！

私達の診療所は、ことぶき町の人達のために作られたものであり、その医療は、ことぶきの人々の痛みや苦しみを少しでもやわらげられたらという思いの結晶でありたいと考えてきました。従って、いわゆる一般的な医療の水準と比べてどうだとか、経営的に採算がとれるかとかは、全く考えずにやってきました。結果として、かなりの質でやっていると思うし診療所の面積も、職員の数もどんどん大きなものになってしまいました。私個人としては、経済的に成り立たなくなれば、又、元の無給医に戻ればいいのであって、それでもだめなら、カンパをお願いするか、身銭を切ればいいので何も心配することはないと思っていました。医療とは、ヒポクラテスも言っているように、元々他の人の為の行為であり、他人の役に立とう、という意欲が衰えない限り、必ず続けていけると考えていました。

10年がたち、今一番考えなければいけないことは、次の10年どうしていったらことぶき町の人達に役立ち続ける

ことが出来るだろうか、ということだと思います。ことぶき町は変わっていく街です。今後も変わり続けていくことでしょう。変化することぶきの人々に対応しうる医療でありたいと思うのです。例えば増え続ける高齢者の医療・生活援助にどう対応していくか、以前より高率に

なってきたと思われる孤独死に如何に対処するか等の問題です。私自身にとっては、精神科医としての力量以上に、内科、整形外科等の、老人医療の力量、医療ケースワーカー的な視点を問われるのではないかと考えたりしています。

いずれにしろ、私達の診療所は、立ち止まることはできない。変化する、ことぶきの人々の現実あれからに寄り添って、変わっていくしかないのです。とりあえず、私自身も行ける所迄歩いていこうと思っています。どうか次の10年も暖かくお見守り下さい。

(田中 俊夫)



デイケアで引越し・清掃業を始めました

当診療所デイケアでは、今年2月より利用者さんのやる事づくりのため、主に町内での引越し・清掃業を開始しました。主な業務内容は、1. ドヤからドヤへの引越し作業、2. 居室の清掃を必要とする方へのお掃除サービスなどです。

はじめは実際に依頼が来るのか不安はあったのですが、6月6日現在、ヘルパー事業所や生保ケースワーカーさんからの紹介などで13件のお仕事をしています。

仕事は荷物の少ない場合もあれば、3畳のドヤに「こんなに？」と驚く程の荷物の時や、汚れの激しいお部屋もありますが、参加者はツナギ姿で現れる人や雨天時には上下の合羽を自主的に用意する人など、皆「仕事」に対するやる気は満々です。

また、参加者とスタッフで毎回行っている振り返りでは作業に参加した利用者さんから前向きな発言が出るなど、グループの力やモチベーションアップにも効果大でした。人のためになり、更に報酬を得ることが出来たことに喜びを表す声が参加者から出されています。デイに残ってい

る利用者さんも積極的に調理などに参加するなど皆で協力し合いデイの引越し屋は円滑に進められています。

以下、利用者さんからの声とヘルパーさんからの感想の一部をご紹介します

- ・お客さんへの事前説明や見積もりをしっかりと行った方が良い
- ・徐々に身体を動かし、気持ちが悪かった。
- ・楽な引越しとエレベーター無し、部屋が荒れている等の困難な引越しの対策を考える必要あり。
- ・人数は多ければ多い程よい。
- ・価格を低くすれば、噂が広まって仕事が増えるかもと感じた。
- ・お客さんへ事前に渡す注意書きなどがあった方が良い。
- ・ヘルパーさんより

作業をされる方は自然とリーダーも決まり、スムーズに働かれていました。引越しをされたご本人と同じ共同診療所に通う人が来るということで安心して作業を見守ることが出来たようでした。また、何かあったらお仕事を頼みたいと思います。

(大平 正巳)

この度、ことぶき共同診療所デイケアで引越し屋さんをはじめめることになりました。高齢・障がいのため、自力での引越しが困難な方やお部屋の掃除が難しい方はぜひご相談ください。【一般業者より割安にてお引き受けいたします】ヘルパーさんや訪問看護師さん、ケースワーカーさんや帳場さんからのご相談も大歓迎です。

“診療室から” (17)



イラスト Arai ikuko

「診療室」は、公園や河川敷などの路上でも、簡易宿泊所が密集するドヤ街でも、医療を求める人がいる限り、そこに関わる人々の機動性と工夫によって、形作られていきます。今回は、医療活動のネットワークと連携を進めてくれた大脇さんに書いていただきました。(編集部)

笹島、新宿、山谷、そして寿

タイトルにある地名は日雇労働者が集まり、野宿者も多い街です。私が12年間活動してきた街でもあります。

きっかけは難民キャンプ：1993年難民救援の為ソマリアで活動した後、笹島（名古屋市）で野宿者健康相談をたまたま手伝った時、自分の身近にアフリカの難民より厳しい生活を強いられている人がいることにショックを受けました。難民には原則的に国際機関・NGO・庇護国から衣・食・住・医療・治安が保証され、国際的に注目を受けていますが、野宿者には何も保証されず、周囲から無視・蔑視されているからです。これが、私が野宿者支援活動を始めたきっかけです。

笹島から新宿へ：2年程笹島で炊き出し後の健康相談を継続した後、1996年東京に転居した時野宿者支援活動を続けるために情報を集めたのですが、「山谷では医師も含めすでに支援活動している。寿には診療所もあり医療支援が行き届いている。新宿はまだ医療関係者がいない。」と聞き、新宿での活動を始めました。

山谷：2000年訪問看護ステーション・コスモス設立と同時に山谷に関わるようになり、2004年からは無料診療を行っている山友クリニックでも定期診療をするようになりました。両方とも野宿者が対象で、城北労働福祉センターの敬老室・娯楽室で月1回健康相談、山友クリニックでは週1回診療をしています。

ことぶき：この街に来るようになって7年経ちました。新宿で活動する前話に聞いた寿の診療所は、ことぶき共同診療所のことでした。毎月診療をするようになって、寿の野宿者支援の長い歴史と行政との連携を知り驚きました。2002年コスモスが訪問看護ステーションを寿町にも開設したことで、寿・新宿・山谷のネットワークが確立したと思います。途上国での健康支援活動と、国内での外国人や野宿者に対する健康支援活動は、対象が社会的弱者・疎外者であるという共通の土台の上にあるため、シェアの活動に参加するボランティアの多くが、野宿者の健康問題にも興味を持っています。その中には寿を見学に来たり、新宿連絡会や山谷のコスモスで定期的にボランティア活動をする人達も少なくありません。これからもこのネットワークを大切にして、海外と国内の活動の有機的な連携を継続できればと考えています。

(整形外科 大脇 甲哉)

レポート

「寿町に住む高齢者・精神障がい者の必要とするサポートについて考える」学習会

2006年5月25日(木)、当所において、上記のテーマについての勉強会が開催されました。今回が第1回目ということで、どれくらいの方が参加してくれるのかと心配していましたが、総勢42名の方が来てくださり大盛況となりました(参加して下さった方・順不同:中福祉保護・障害支援担当、ろばと野草の会、寿福祉プラザ相談室、ことぶき介護、寿地区センター、ことぶき福祉作業所、みなと会、不老町地域ケアプラザ、さなぎ達、西荻在宅ケアセンター、横浜市福祉サービス協会、かもめサポート、神奈川病院、ワシン坂病院)。開始時間が遅く、お仕事を終えてから参加して下さった方も多かったと思います。お疲れのところ本当に有難うございました。

まず始めに、当所の大平さんから診療所を訪れる患者さんの状況などについての説明がありました。現在1日平均140人もの患者さんが来ており、早い人は早朝5時頃から順番待ちで並んでいる事。その理由として、フリーに集まれて他の人と話ができる所の1つに診療所があり、生活のリズムの基準になっていないのではないかという事でした。その他には診療所で多いアルコール依存症、

薬物中毒後遺症、統合失調症の患者さんが5年前に比べて3倍に増えている事、診療所におけるDOTS(注)者数が53名である事、そして孤独死の問題についての話がありました。特に孤独死の問題については、我々がどこで介入する事ができるのかという問題提起がありました。孤独死の傾向としてアルコール依存症者の方についていえば、当院以外の社会資源につながっておらず連続飲酒状態に入ってしまった方が比較的多い為、連続飲酒状態を早期につかむ事が大切なのではないかという事でした。

その他必要とするサポートについては服薬健康管理、日常的相談体制、居場所の問題、やる事の問題、地域生活を支えるネットワークの問題についての話がありました。

次に扇荘新館の帳場さんである岡本さん、ことぶき介護の梅田さんにお話を頂きました。

岡本相大さんのお話

岡本さんは帳場さんになるまでサラリーマンであり、寿という町がある事は知っていたけれども、それまではドヤの生活、生活保護、福祉、ケアマネージャー、ヘルパーといったこととは縁が無かった

そうです。初めての帳場さんをした青葉会館時代、初めの半年間で6人の方が亡くなったそうです。周りの人から「亡くなる人数が多い」と言われ、とても後悔を感じたそうです。何故多くの方が亡くなったのかと考えた結果、ドヤ暮らしの生活のリズムの不摂生が原因ではないかと思ったそうです。そしてそれをフォローするのは我々ではないかと考え、様々な



な試みをしてきたそうです。65歳以上の人についてはヘルパーさんがつく為、毎日役所に電話をかけて様子を話し1ヶ月の間に

何度も具合の悪くなる人がいることをわかってもらい、ヘルパーさんをつけてもらいました。65歳以下の人については、お弁当サービスを利用し元気であるか確認したそうです。そして扇荘新館オープン時にはナースコールを設置したそうです。その結果、この2年間の間に亡くなった方は10人で(内訳はドヤで3~4名、自殺1名、残りの方は病院で亡くなりました。)、ナースコールを付けたおかげで3名の方が助かったそうです。

岡本さんは今の寿において横のつながりがないように思うそうです。その事は寂しい事だと感じているそうです。これから寿をよくしていこうと思ったらみんながお互いを理解し手を繋いでやらなくてはならない。1人の力には限界があるので

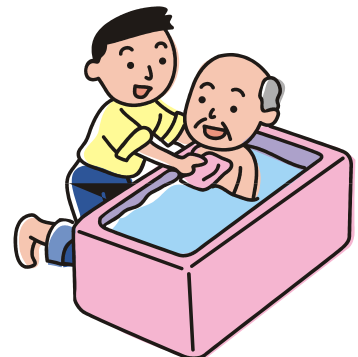
背伸びをしないで1人1人ができる事をやればいい。設備を整えるだけではなくそれに関わっている人の気持ち大切です、とお話してくださいました。

岡本さんは殆ど家には帰ることができないそうです。それほど忙しくても人を愛するという気持ちが大いなのでこの仕事を続けていられるそうです。家族の方ともあまり会えなくても会話は多くしているそうで、上手にバランスはとれているそうです。お話を伺って岡本さんの人を思う大きな気持ちに感銘を受けました。

梅田達也さんのお話

梅田さんはヘルパーさんになってから10年、寿に来てから8年、ことぶき介護を立ち上げてから3年になるそうです。前に勤めていた所で初めて寿に派遣され、その時にこの地区がなんとなく楽しいな、好きだなと思ったそうです。そして、NPOをたちあげる時に寿でやろうと決めたそうです。

梅田さんからは介護サービスを利用している人について、寿地区内と寿地区外の比較をしたものなどを発表して頂きました。家族構成、居室、設備の違いなどから近所付き合い、管理人さんとの関わり、介護サービスについてなど21項目もの比較をして発表してくださいました。寿では他地



区よりも関係機関との連携やサービスが整っており、近隣の人との付き合いも密である事がわかりました。他の地区より見守りがあるのかもしれませんが、これは寿に住む人々が単身で家族との連絡もとっていない方が多いという特徴からきているのかもしれませんが。又、街では「孤独死」など多くの課題がありますが、これは全国的に起きていることであるとの認識をお話して下さいました。この地域に暮らす人々は様々な理由で家族や地域との繋がりを失い現在に至っています。そして、町内でも新たな繋がりを築くことが出来ない中で上記の問題が発生している。街の問題は日本社会が抱える普遍的課題であると語っていらっしゃいました。

今、梅田さんは日々とても楽しくしているそうです。日常的に岡本さんや診療所のスタッフなどと話をしているのが楽しくてそれだけでも十分だと感じているそうです。

話のまとめで、寿において独居で亡くなる人が多いのは様々な事情を抱えたそういう人達が集まった町だから当然の事であるという話ができました。

ではどうすれば個別にそれぞれの人を見ることが出来るのか、人との関わりが嫌いではないが苦手な人にどう関わってあげればいいのか。それにはやはり関係機関とのつながりが大切であり、単身独

居の人が外に出てこられる為のサポートが必要ではないかという意見ができました。当所の鈴木先生からは「寿での孤独死が当たり前になってしまっていてその麻痺した感覚をどうにかしなくてはいけない、これからは各人が知恵を出し合い出来ることから始めましょう」という話がありました。看護師の矢島さんは「毎日DOTSにきていた人が来ないなぁと想像していたら亡くなっていたという風に、急に亡くなってしまう人が多いという印象がある」そうです。診療所だけではそれぞれの人を把握することが追いつかないのでどういう風に他機関と共有するか考えなければならないということでした。

最後にみなさんから質疑応答があり約2時間の勉強会が終了しました。その後交流会をしました。くつろいでお話する機会もなかなかないのでよかったなぁと思いました。皆様、ご協力ありがとうございました。

(新井 育子)

(注)

DOTS(Directly Observed Treatment, Short-course)は、WHO(世界保健機関)の結核対策戦略で、「抗結核薬を患者さんには手渡さず、毎日外来に通ってもらい、医療従事者が患者さんの服薬を目の前で確認し確実な治療を行うこと」を指します。当所ではこの方式を応用し、主に抗酒剤の服薬時や、服薬管理が苦手・困難な場合に行なっています。これは正確には「DOT」ですが、「拡大解釈」して「ドッツ」と呼んでいます。(編集部)

新コーナー 寿町・あれこれ

① ナースコール

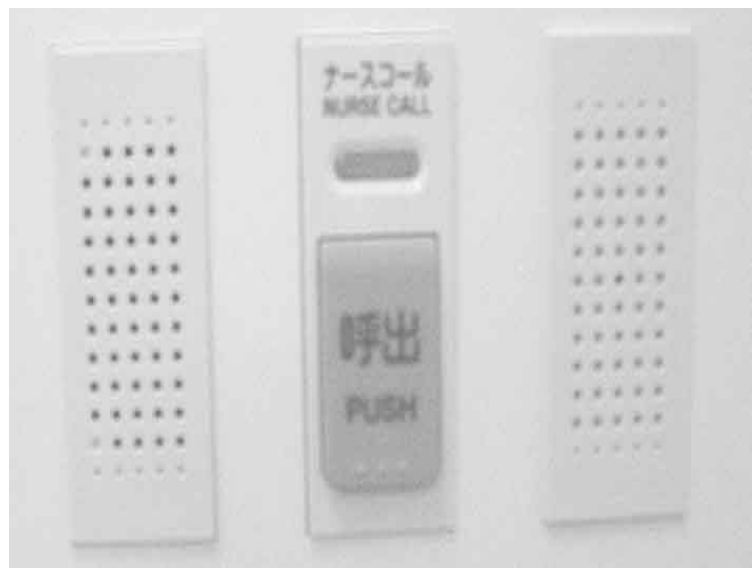
この新コーナーでは、寿町の様子についての“あれこれ”を伝えていきたいと思います。記念すべき第 1 回目にクローズアップするのは、疾病、高齢などと密接な、あの機器です。寿町で初めてこのシステムを取り入れた宿泊所の方にお話を伺いました。

これがナースコール
(マイク、呼出ボタン、スピーカー)

近年新築された簡易宿泊所の一部では、急な発作などの緊急事態に備えて、入居者が居室・廊下・トイレ・炊事場から帳場さん呼び出せるように、病院用ナースコールシステムを導入しています。といっても看護師さん呼び出すのではないので、実際は「帳場さんコール」ということになります。

ナースコールは、ファミリーレストランにある呼出ブザー、マンションにあるインターフォンよりも高機能です。インターフォンと違い帳場さん側に着信が残りますし、一斉放送ができません。ナースコールは、入居者から帳場さんへの緊急連絡にとどまりません。呼び出し機能もあります。ふだんケースワーカーさん、ヘルパーさんは直接居室へ訪問していますが、利用者さんが睡眠中だったりして応答のない場合にはナースコールを使います。また友人知人の来訪の時も呼び出しできます。

ナースコールは、脳梗塞、脳出血、心筋梗塞などの突発的発作に対して命綱となることがあります。ナースコールを設置している、ある宿泊所の帳場さんの話です。



ナースコールは、平均すると 1 日で 10 回前後、夜間だけだと 1 回前後。入居者のコールには大体 3 つあって、押し間違い、意識がしっかりしていて具体的用件が伝えられる状態、やっとコールだけでき発声さえ出来ない緊急の状態。3 つめはかなり危険な状態にある。

ある人から、夜 1 時にナースコールで呼ばれた。マイクで呼びかけても言葉にならず、うなっている状態。部屋に行ったら、よだれを出していた。救急車を呼んだが、救急隊は「脳の血管が切れて、その直後にナースコールを押し

たようです」と言っていた。なぜだろうか、似たような事態はよく週末に起こる。

ミス・コールしてもいい。心置きなく鳴らすことが大事。とにかく鳴らして欲しい。今健康な人でも、いつか健康でなくなることがあるのだから。

また、ナースコール設置のきっかけについては、かつて勤務されていた宿泊所での経験にあるそうです。

新聞配達員は購読者の居室のドアノブに新聞をぶら下げている。ある時、2日分の新聞がノブにかかったままだった。居室の鍵を開けると、部屋の入り口で倒れていて動かなかった。すでに亡くなっていた。ほかにも居室でひとり亡くなっている人は何度か目撃した。「もうちょっとで助けられたのに……」。このような事態に直面し、具合が悪い人は早めに発見する手段を考え始めた。

試行錯誤を続けた。「居住者と外部の人との交流があれば孤独死を防げるのではないかと、弁当配食サービスや介護ヘルパーさんになるべく入るようにした。だが、配食サービスを希望しない人も多いし、介護サービスは原則として65歳以上でないと受けられないということで限界があった。居住者には「助けを求める時は壁をたたいて」とよく言っていたが、隣の人との接触は避けたいと考えている人もいるよう

だった。そこで緊急時に帳場へ直接連絡することのできる「ナースコール」に行き着いた。

寿町の帳場さんの勤務には、住み込み型、受付時間帯限定型などがありますが、ナースコール・システムを導入するなら24時間常駐型にするしかなく、特に夜間呼び出しができるかどうかが必要になるといわれます。ナースコールの試みは、孤独死など様々な経験をフィードバックすることによって、宿泊所が療養介護型としての性格を増そうとしていることを認識させられました。そのシステムがうまく機能していくために日夜、帳場さんが居住者の健康や困り事を配慮し対応していることはいうまでもありません。

(取材 / 編集部)

帳場さん側の受話器



新コーナーです
診療所の出来事
をお伝えしていきます

診療所日誌
06年4~6月

4月

- 4月1日 障害者自立支援法スタート。現場は大混乱
- 4月 Dr.鈴木伸が中保健福祉センターの、Dr.越智が保土ヶ谷福祉保健センターの嘱託医となる
- 4月4日 寿のドキュメント映画「生きる」「生きる2」の渡辺監督みえる。Dr.田中、10数年ぶりの再会です
- 4月7日 松本愛さん、職員として勤務
- 4月 精神科、内科ともに入院者多数

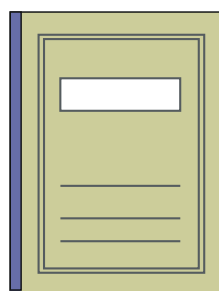
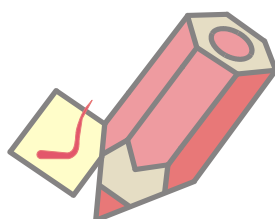
5月

- 5月16日 デイケア、野島公園へ潮干狩り
- 5月17日 Dr.鈴木美奈子、水曜午後診療開始
- 5月19日 デイケアのメンバーさんの担当CW訪問
- 5月20日~21日 デイケア、稲子で田植え。長雨の影響で田植えは日曜日のみとなる
- 5月25日 学習会「寿町に住む高齢者・精神障がい者の必要とするサポートについて考える」。外部からの参加者32名
- 5月 引越しの依頼増える

6月

- 6月6日 診療所の患者さんがドヤで亡くなっていることが発見されること続く
- 6月13日 患者さんへのパソコン教室を週一回ペースで開くことになる
- 6月14日 福祉保健センターより、外国籍の女性の受診以来あり。オーバーステイで入院につなげることはなかなか困難
- 6月21日 カルテ3000番達成

(まとめ/矢島 雅子)



職員 自己紹介

菊地 加奈子

ことぶき共同診療所でアルバイトをさせていただいております、現在福祉を勉強中で大学四年生の菊地と申します。診療所でのアルバイトは、今まで教科書をいくら睨んでもピンとこなかった事を、なるほどと思わせられる貴重な場だと感じています。

私は幼い頃から、絵を描くこと、踊ること、食べることが大好きで、これらの事に没頭している時、特に絵を描いている時は、常に他の人と違ったオリジナルなものを作りたいと無意識に考えていました。その作

品の善し悪しは誰かが決めるわけでもなく、自分がそれを良いと思えば、価値があるものです。その絵をみて感動する心があれば価値が生まれるのではないのでしょうか？当たり前ですが、デイケアのメンバーさんと過していると幸せも色々あって良いのだと感じます。

まだほとんど専門的な援助技術のない未熟な私ですが、メンバーさんの幸せと感じる心を刺激するように接する事を心がけています。

寿町地域ニュース・あらかると (2005年10月～2006年4月)

【医療福祉】寿福祉プラザ内に就労支援窓口開設(05.10) / 勤労協が月刊の住民情報誌『いぶき』創刊(06.1) / アジアビルで大石クリニック寿町デイサービス開設 / 横浜市パン宿泊券の見直しとの方針を示す。06年10月より就労支援へ重点を置き、給付制限へ(06.3) / 横浜市福祉局が衛生局と統合し健康福祉局となる(06.4) / 障害者自立支援医療制度が開始(06.4) / 介護保険改正で予防重視化、施設居住費食費自己負担化など給付の見直し。寿町での要支援者(要支援1および2)については原則、不老町地域ケアプラザ地域包括支援センターが窓口となる(06.4) / 生活保護利用者の市無料パス券が06年10月に廃止予定。寿での対象者は多いので混乱が予想される / 寿版の地域保健福祉計画が策定(06.3)【環境】寿地区自治会の呼びかけで花いっぱい運動始まる(06.1)【簡易宿泊所】新築オープンは第五港館、アネックスゆめ、扇荘新館B。自動車塗装所跡地(さかえ館隣)に「みらい館」建築中(06.7オープン予定)。松影会館建替新築中。仮称・三都荘新館新築(06.6着工予定) / ヨコハマホテルビレッジ事務所が三和物産ビル1階あじめ食堂あとに移転(06.4)【娯楽】場外舟券売場が扇町3丁目に建設予定(06.6着工予定)。野毛のように飲食店が増え関内駅・石川町駅からの人通りが多くなるのでしょうか。(寿町関係資料室)

新
コ
ー
ナ
ー



医療法人 ことぶき共同診療所・鍼灸院ガイド

診療科目 **精神科 神経科 内科 心療内科**

整形外科 鍼灸 (泌尿器科は今年度お休みさせていただきます)

診療所

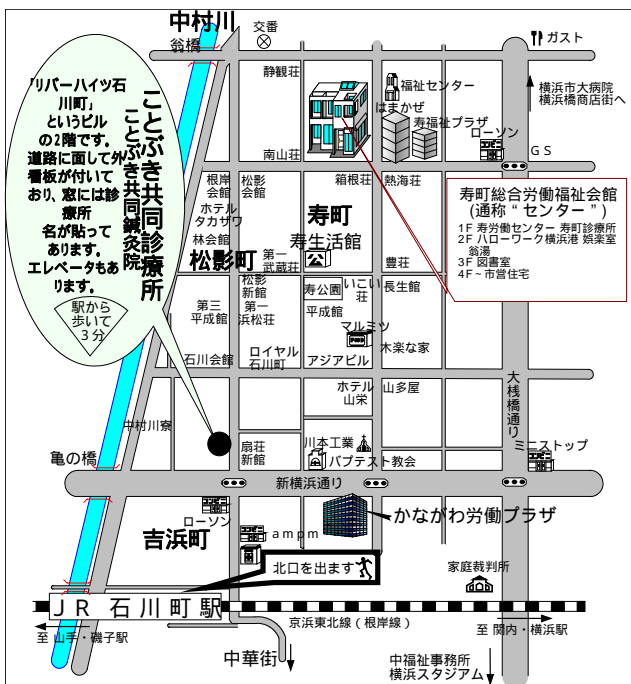
	9時30分	12時	14時	18時
月	休 診			
火	田中・鈴木	昼 休 み	田中・鈴木	精神科・神経科・内科
水	越 智		越 智	精神科・心療内科・内科
木	田中・鈴木		田中・鈴木	精神科・神経科・内科
金	鈴 木		田 中	精神科・神経科・内科
土	整形外科・精神科・神経科・内科・泌尿器科			

第1・2・4・5週 三橋・鈴木
第3週 大脇・鈴木

鍼灸院

	10時	12時	14時	18時
火	新 井	昼 休 み	新 井	
水	新井・富永		新井・富永	
木	新 井		新 井	
金	新 井		新 井	

鍼灸院は予約制のため、お電話等で確認の上、ご来院ください。



保険扱い

国民健康保険 各種社会保険 生活保護法
精神保健福祉法(その他、医療福祉相談も受け付けています)

心理判定(月1回)

寿町関係資料室

寿町にまつわる資料収集、調査研究を行う「資料室」を併設しています。

共同診療所・鍼灸院の所在地

〒231-0025 横浜市中区松影町 2-7-17
リバーハイツ石川町 2F

でんわとファックス

(045) 651-2305

e-mail info@kyoudouclinic.com

ホームページ

http://www.kyoudouclinic.com/

2006年6月30日現在